



発行 早稲田大学校友会
早鹿兒島支部
住所 鹿兒島市金生町3-1
山形屋本部秘書室
☎0992-27-6310代

早稲田の森を 心の糧にして



早稲田大学校友会鹿兒島県支部長
鹿兒島稲門会会長

松元 茂 (25年政経学部卒)

鹿兒島稲門会の皆さん、待望の
会報第一号が発行されました。稲
門会も年々発展してきましたが決
して十分ではありません。同じ県
内に生活し乍ら名簿だけで、まだ
まだお互いを知らなすぎます。年
一回の定期総会のつなぎとして、
年二回例会報を発行して一層の親
交を深めたいと存じます。
鹿兒島稲門会を語るべき故増田
会長の功績を忘れてはなりません。
戦後約30年に亘り稲門会の会長と
して、大学の評議員として活躍い
ただきました。晩年の頃は足が少

しご不自由のようでしたが、車椅
子で出席されたこともありました。
生涯ワセダをこよなく愛しつづけ
られた増田会長でした。残念乍ら
昨年の九月亡くなられました。大
学当局より指示の御芳志をお届け
するとともに、葬儀には交友会支
部を代表して弔詞を拝読いたしま
した。又ご遺族の要望により、出
棺の際は「都の西北」の曲の流れ
の中で校友多数と共に御見送りし
ました。鹿兒島稲門会の皆さんと
共に故増田会長のご冥福を心から
お祈り申し上げます。
また、越山前会長は百周年記念
の募金活動に大活躍いただきまし
た。口は出すが金は出さないのが
ワセダマンです。七月の真夏の最
中でしたが、西原総長も越山会長
にかり出され各企業に募金活動に
まわられました。目標には及びま

せんでしたが、各県に比肩する位
の募金額を集めることができたの
は、越山前会長のおかげです。
吾々の母校早稲田大学は、昭和
57年輝やかしい創立百周年を迎え
ました。更に21世紀への布石が着
着と進められております。
まず第一弾は緑溢れる所沢十一
万坪の敷地に「人間科学部」およ
び「人間総合研究センター」が開
設されました。スポーツ科特別選
抜生制度も設けられ、スポーツの
ワセダの復活が期待されます。
他方、安部球場跡地には「総合
学術情報センター」工事が始まり、
その中心は東洋一の図書館で平成
二年三月完成の見込です。
更に皆さんに馴染み深かった学
生ホールは、大正十四年の建築で
老朽化しており、建て替えられる
ことになりました。新学生ホール
は大隈講堂裏と大隈庭園の一部に
またがる形で、床面積三千平米、
八百席ほどの学生食堂が出来上が
る予定です。
このように母校が新しい時代に
向って、着々と充実していくこと
は喜ばしいことです。
今母校は、学生数四万五千人、
卒業生四十数万人、世界のいたる
ところにワセダマンの活躍が見ら
れます。竹下総理を始め政界は勿
論のこと、各界に亘ってワセダの
声を聞きます。

「世の中には平和なときに強い人
と、激動の時代に強い人があると
思うが、早稲田は平和なときより
そうでないときに強いという気が
する」と、大学の宇野教授が言っ
ておられます。
昭和六十三年二月バンコクを訪
れたとき、バンコク稲門会のメン
バーのその土地にとけこんだ活躍
振りを見て、吾々が失いかけてい
た早稲田らしきを見せつけられま
した。バンコクの異国の空で声高
らかに歌った「都の西北」の感動
は、一生忘れることはできないで
しょう。
さて、鹿兒島県より毎年千百人
位の入学志願者がありますが、合格
は六十人位で狭き門であります。
早稲田はもともと地方の有力子
弟の多かった大学であり、そのせ
いでワセダマンには在野精神が脈
脈と生き続けてきました。是非諸
兄の有力子弟をワセダに多数送り
こんでいただきたい。
私共は、都の西北早稲田の森に
学んだ共通の心の故郷をかてにし
て、親睦と連帯の輪をひろげ、鹿
兒島稲門会を自分達の会としてま
すます発展させようではありません
んか。
会報に奮って投稿していただい
たり、七月の定期総会に気軽に出席
いただくだなど参加を待っており
ます。
稲門会諸兄の御健祥と御活躍を
祈ります。
会報委員の方、ご苦勞さまでし
た。

早稲田大学校友会鹿兒島県支部総会

校友の皆様、お誘い合わせの上お気軽にご参加ください。

記

- とき 7月22日(土) 午後6:00～ (総会后懇親会)
- ところ かごしま林田ホテル ☎(0992)24-4111
- 会費 6,000円 (運営費込み)

出会い

第一勧業銀行鹿兒島支店長

田中 隆康 (43年商学部卒)

鹿兒島に来て一年、銀行に入つて丁度二十年が経つ。この間いろんな方々にお会いしたが、振り返つてみるとそれぞれの出会いは、どれも有益で、今の私にとって、極めて貴重なものとなっている。そんな出会いのいくつかを、思いつくまま述べてみたい。

入行して八年目、二回目の転勤



日本人も外国人も、パーティで初対面の時はなから話してよいものやら多少戸惑い勝ちですが、私の経験では、外国人も初めは戸惑いながらも持前の社交性と好奇心であれこれしゃべりかけてくるようです。
パーティ会話の始まりには、ひとつのパターンがあるように思いますので御紹介してみよう。
(1)当然のことですがお互いに名前

かなり悪くなっており、住宅をどこに決めるかが頭痛のタネで、引越しのシーズンを既に過ぎていたこともあり、なかなか希望の家が見つからず困っていたある日、事務所のある高層ビルのエレベーターに乗ったら「ミスター田中」と私を呼ぶアメリカ人がいる。振り返ると、なんと彼は、三年前、南米ヴェネズエラのカラカスで知り合った、あるアメリカ大手銀行の重役ではないか。

で、最近チリの政情が安定してきたため、一家そろってチリに帰国するとのこと。当面、ロスの家は人に貸したいと思っていたが、是非、私に使ってほしいとの申し出を受けた。私は、渡りに舟とこの話に乗ったが、彼との三年目の再会のお陰で、ロス勤務中、ロス最高級の住宅地・サンマリーノに住むことが出来た。

の出身でしたね」と質問して来られた。「はい、そうですが……」と答えると、「福井に田中病院というのはありませんか」と言われる。「田中病院というのは二つあります。田中右策という先生ですが」とのこと。「それでしたら私の叔父です」。なんと、この社長と私の叔父とは六年間、南方の戦地で同じ釜のメシを食べていたことが判った。偶然と言うにはあまりにも奇縁。私にとって鹿兒島は、地縁も血縁もない土地と思っていたが、こんなすばらしい縁が見つかったのだ。

で、それまでいた銀座支店を転出することになった折、銀座時代、親しくお付き合いさせていたある企業の社長から饒別にと一枚の額をいただいた。その方は、書の大家で、いただいた額には「拙誠」と書かれていた。韓非子の言葉で「拙くとも誠をつくせ」との意味とのこと。私は、この言葉を私の座右銘として大切に持ち歩いている。「拙くとも誠をつくせ」と肝に銘じながら。
十年前、ロスアンゼルスに赴任した折、当時、既にロスの治安は

彼と旧交を温める中、私の住宅探しの窮状を話したところ、彼は是非自分の家を借りてくれ、と思いがけない申し出をしてきた。事情を聞けば、彼はドイツ系チリ人

鹿兒島に赴任して六ヶ月目の昨年八月、日頃大変親しくお付き合いをいただいている地元大手建設会社の社長のお供をして、奄美大島に出張した。お客様との夜の席で、たまたま話題が戦争中の戦地での昔話におよんだ。この社長が「と

この社長とは、川畑孝則君の叔父君、南生建設の川畑堅三社長のことである。

シリーズ 集まり散して

パーティのこと

三井物産鹿兒島支店長

繁昌 正流 (35年法学部卒)

を言います。その際、姓ではなく名が大切なのです。

(2)次に聞いてくることは「この国が好きか?」「この国のどこを訪れたか」などです。

(3)次に先方は、こちらの身辺調査を始めます。「日本のどこから来たの?」「今どこに住んでいるの?」「学校はどこ?」「専門は?」

私は大要次のように話すことにしていました。
「日本の最南端の鹿兒島という

(1)

フオードとケンブリッジ
みたいなものだ」

「相手は感心したような顔になる」「ワセダで四年勉強したが習ったことは全部忘れてしまった」

「相手は、俺も忘れてしまったと高笑いする」

「外国には出張であちこち行ったが、住んだことのあるのは、インドとニュージールランドで楽しい経験だった」

「相手方はインド生活は大変だったろうと同情してくれるが、それ以上は言わない。察するに、ロンドンとかニューヨークとかの生活経験のない男だから、会社での履歴は大したことはないなあ」と判断

しているらしい」

外国でのパーティのすべり出しの会話はザツと以上のようなことになり、あとは話題が進展し、酒の酔いも手伝い熱中してくると、連中のしゃべりも普段通りに早口になりスラングが混ってきて、こちらが聞き耳たてても分からない話やジョークも飛び出す。パーティが終った時は、やれやれと家路につくことになりす。

「商社マンも、ワセダのことを誇らしげに説明するまでが花でした。」



アメリカ東海岸旅行記

—ウォーターフロントを視察して—

南生建設専務取締役

(鹿児島稲門会事務局長) 川 畑 孝 則

(46年商学部卒)

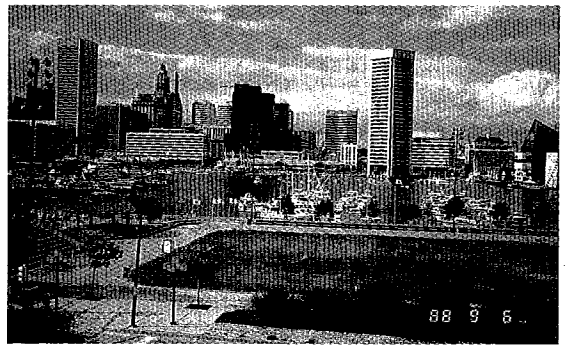


昨年二月の稲門会バンコク旅行から、シンガポール・香港とたてつづけに海外旅行が続き、九月にはとうとうアメリカまで行くことになりました。このアメリカ旅行は鹿児島青年会議所の企画で、鹿児島でも最近盛んに議論になっ

ていますウォーターフロント開発について、その現状をこの目でみようとして、理事長だった玉川君(46政経卒)とわたしが中心となり、アメリカ東海岸の五都市を訪ねたものでした。メンバーはわたしたち二人の他に青年会議所のメンバー四人と、国・県・市の方が個人参加の形で加わり総勢十人で行きました。

今回訪問したところは東海岸のボルティモア、アレキサンドリア(ワシントンDC郊外)、フィラデルフィア、ボストン、ニューヨークの五都市でいずれもウォーターフロント開発では先駆的の地区として有名なところ。それぞれに特色がありましたが、三ヶ所程特に印象深い所を紹介してみたいと思います。

ボルティモアは、野球のボルティモア・オリオールズの本拠地で、今や最も有名な再開発が行われ、ウォーターフロントの成功例として名の高いインナーハーバーです。インナーハーバーの特徴はいろいろありますが、30cmぐらいしかない干満の差を最大限に生かし、水辺での楽しさや賑わいを演出していることです。帆船や水上タクシー、ペダルボートなど見ているだけでも楽しく、その水際周辺には27階建のワールドトレードセンター、国立水族館、メリーランド科学センターなどがあり、またその周りにはホテル、コンベンションセ



88 9 6

ンター、オフィスビル、アパートなどがあります。特にハーバープレイスは多くのレストラン、カフェ、食品店などが集まっており、湾に沿って散歩をしたり、買物や食事をするのも実に楽しい所です。わたしたちが訪れた九月四日はちょうどレーバーデーで、夏の終わりの最後の休日を楽しもうと多くの市民や観光客が集まり大変な賑わいでした。

ボストンは、植民地時代の古さを残す「歴史の街」ですが、商業、金融はもちろん最近では先端技術産業も活発で活気に溢れています。

このウォーターフロント開発は、ボストン再開発公社(BRA)というところが行っていますが、この基本コンセプトは、できるだけ古いものを残し周辺の建物などと違和感なくマッチし、全体としてボ

ボルティモア インナーハーバー

ストーンらしい雰囲気創ることにあるようです。特に有名なのが市庁舎近くにあるフアンニエルホールとクインシーマーケットです。食事やショッピングの一大スポットとなっており、石だたみ中庭にも果物・野菜・花の露店が並び、市民はもちろんのこと観光客もいっぱい賑わいを見せています。

ボストンでの楽しみの一つはやはり食べ物です。港町ボストンだけに中心となるのはシーフードで、このロブスターやカキ、ハマグリなどは露天などでも食べさせてくれます。このおいしいものと水に浸れる雰囲気があつてこそウォーターフロント開発の成功があるように思います。

ニューヨークは、金融・商業の世界の中心である一方、以前は地下鉄は汚いし暴力事件はよくあつたりで、危ない所というイメージがありました。だいたいよくなっているような印象でした。このウォーターフロントはロアーマンハッタン、イーストリバー沿いのサウスストリートシーポートという所が有名です。ここでは一面に敷きつめられたボードウォーク(板張り回廊)が非常に新鮮で素晴らしいものでした。そのボードウォークでは大道芸人や音楽などパフォーマンスが行われ、ピア17とい

うショッピングセンターにはハイセンスで、それでいて親しみやすいブティックやショップが多くありました。

ウォーターフロントについてはこれぐらいにして、ニューヨークで印象に残ったことを少し書いてみたいと思います。わたしたちが泊まったホテルは、五番街の近くでしたが、アメリカ旅行も最後というところでショッピングでもしようとその近くを歩いたのですが、「ティファニー」のお客の多いこと、それも日本人の多いこと、どこかのバーゲンセールのようにびっぴりしました。もう一つ感激したのがメトロポリタン美術館です。もともとこの旅行ではウォーターフロントの視察が主だったので、当初メトロポリタン美術館は入っていませんでしたが、時間があつたので行ってみたら、内容の素晴らしさに感動しました。

その他にも、旅の思い出はたくさんあるのですが、やはり実際行つて見ることは大切だということ強く感じました。勉強したいことや見てみたいことをはっきり決めて、その目からその都市や街、ものを見ると、鹿児島ではどうかということがいっぱいあります。稲門会でも昨年はバンコクに行きました。今後ぜひ機会をつくつてできるだけ多くの国・世界の街を見てみたいという思いを強くしました。

当初タイの首都バンコク旅行が決定するまでいろいろ意見が分かれましたが、鹿兒島空港より直接行けるという事、香港はすでに大半のメンバーが行った事がある、皆さん超多忙の方ばかりで4日間位しか時間をつれない事、時差がなくてあまり疲れない所、日本航空の馬場君をうまく利用出来る(?!)、東南アジアの発展途上国の活気に、この目の肌で直に触れたい等の理由で結局はこの旅行に決定いたしました。

結論から言いますと、小生の段(団長)をヘッドに十七名は、2月8日(月)鹿兒島発JAL七五七便、香港経由にてタイ王国の首都バンコクに現地時間午後4時25分、関係者の温かい歓迎を受け到着。最高級ホテル、名門デュシタニホテルにチェックイン。夕食は湖畔の名物サボイレストランにて、タイ大丸富谷社長の「新タイ国事情」の格調高い講義に耳を傾けながら、カニを中心とする豪華夕食を楽しみました。社長のお話に、改めて今日の日本の繁栄の一翼をタイ王国に担っているとの認識を一同痛感

いたしました。二次会は市川氏、木原氏を囲んでスリウォン通り(鹿兒島天文館文化通り)で「タイ国その他の事情!」に耳を傾けました。2月9日はチャーターバスにて観光、視察旅行日。有名なメナム川(甲突川の二五〇倍)の水上マナーケット、黄金仏寺(ワットトライミット)、暁の寺(ワットアルン)、広大なローズガーデン、市内見学等々。お昼はチット・ポシヤーナにてタイ式バイキング料理を満喫。但し、この日は強行軍にて全員少しバテ気味。

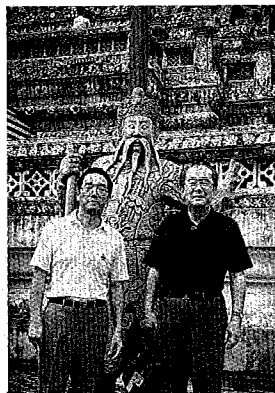
稲門会

タイ旅行報告

日本航空鹿兒島支店営業課長

馬場 弘人

(45年教育学部卒)



▲バンコク市郊外、暁の寺院にて、松元会長と

取りの悪さ等何かと不手際はありましたが、松元団長・大西副団長の指導力、又現地バンコク稲門会々長、山脇孝之氏(金商又一バンコク支店長)、富谷泰生氏(タイ大丸社長)、市川靖氏(バンコク日本航空支店長・稲門会)、木原信義氏(ジャルパックバンコク支店長・三田会)等皆様の絶大な御協力、御配慮で大成功裡に旅を終えたのではないかと参加者一同自負しております。

以下旅程に従って視察旅行報告。一行、松元氏(団長)、大西氏(副

夜は今回の旅行の主要行事の一つ、バンコク稲門会との懇親会。香りの効いたタイ式シャブシャブ料理を楽しみながら、現地稲門会山協会長以下12名と交歓。異国土地においても早稲田の雄がしっかりと根をおろし活躍している事に一同感銘。又あの雰囲気全員で合唱した「都の西北」の味は格別でした。

2月10日は一日自由行動日。ゴルフ組、買物組、知人との約束、仕事組と一日中フル回転。ゴルフ組はスコアはさておき、プレイ中

その後、バンコク最後の夕べという事で二次会、三次会をスリウォン通りにて日タイ友好にこれ努める。(誰だ夕朝四時、五時に帰ってきた奴は!)

早慶対抗 ゴルフ大会 を振り返って

鹿兒島海陸運送取締役営業部長
大西 儀朋(59年教育学部卒)

毎年2回行われている早慶対抗ゴルフ大会は、早いもので今年12回目を迎えようとしております。

通算成績で見ますと、慶応義塾大学の6勝5敗となっており、最近の早稲田の追い上げは目覚しく、4回大会以降の通算は5勝3敗とリードしております。今回はなんと少しでも勝ち星をあげ、タイに持ち込みたい

ところでありました(第1回も3回大会までは残念ながらすべて慶応の勝ちです)。

個人では、川畑孝則氏(46年商)の活躍がひときわ目立っております。ちなみにベストクロスは第10回大会でアウト37、イン39でまわった馬場弘人氏(45年教)でした。

第12回大会は4月中に行なう予定でしたが、年々ゴルフ人口が増え、しかも日曜日というところでスタートが取れず、やむなく中止と相成りました。幹事の力のなさをお許し下さい。今後も皆様のナイスショットを期待しております。

編集後記

素人ばかりで始めた会報作りでしたが、皆様のお陰でなんとか第一号の発行にこぎつけることができました。

出筆者の方々、お忙しい中ご協力ありがとうございました。年二回の発行ができればと考えております。校友の皆様からの数多くの投稿を会報委員一同心よりお待ちしております。

会報委員

中村 眞・磯 大作

久保 英司・辛島 史朗

大西 儀朋